【様式３-１】

公益財団法人 樫の芽会　御中

令和６年度伴走型就学・学習支援活動助成　実施報告書

【団体の概要】

		① 作成日	令和　7 年　5 月　22 日
② 法人・団体名	特定非営利活動法人 #YourChoiceProject		
③団体所在地 （都道府県・市町村名まで）	東京都渋谷区道玄坂 1 丁目 10 番 8 号渋谷道玄坂東急ビル 2F-C		
③ 責任者氏名	古賀晶子	（役職名等）	代表
④ 担当者氏名	大森菜月	（役職名等）	メンバー

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R06-040	⑦助成金額	30 万円	⑧申請カテゴリー	A
⑨奨学活動名	受験伴走型メンタリングコミュニティ#MyChoiceProject				
10 主な実施場所名･およびその住所	メンタリングはオンラインで実施(Zoom)、Summer 1Day Program はサイバーエージェント本社で実施				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式３-２】又は別添資料にて記載・説明ください。）

1 期生(2025 年卒業)の高校生 21 名、2 期生(2026 年卒業)の高校生 51 名に対し、以下の 3 つの支援を継続的に行った。

1. 現役女子東大生による継続的な学習サポート(月 1 時間)

2. 志を同じくする全国の同級生との交流(月 1 時間、高校 3 年生は任意)

3. 社会で活躍する女性によるキャリア講座(文系理系合わせて計 11 回開催、高校 3 年生は任意)

加えて 8 月には、地方の女子高校生たちを東京に招待し、サイバーエージェント本社の見学の他、官僚・エンジニアなどの女性社会人と交流を行う“Summer 1Day Program”を開催し、10 名の地方女子高校生を受け入れた。

現時点で、1 期生からは東京大学 3 名、早稲田大学 2 名、慶應義塾大学 1 名の進学が確認されている。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式３-２等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 （Ａ：人）	平均時間 （Ｂ：時間）	活動量 （Ａｘ Ｂ）	備考・補足・計算根拠等
中学生等				
高校生等	72	29	2088	21 人(高校３年生)×１時間(学習サポートのみ)×12 か月＋51 人(高校２年生)×３時間(学習サポート、交流会、キャリア講座)×12 か月
大学生等				
学習支援員等				
その他				
合　　計				

⑬その他の定量的な数値（任意）

【様式３-２】

令和６年度伴走型就学・学習支援活動助成　実施詳細報告書

奨学活動名：受験伴走型メンタリングコミュニティ#MyChoiceProject

法人・団体名：#YourChoiceProject
作成者　氏名：大森菜月

１．取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

【取り組んだ課題・目的】
私たちの独自の調査、「なぜ、地方の女子学生は東大を目指さないのか」で首都圏と地方、男子と女子の間の意識格差が明らかとなった。根強い価値観や慣習に阻まれ、首都圏学生や地方男子学生に比べて選択肢が狭められている地方女子学生に対して、サポートを行うことで、見えていなかった選択肢の提示やより自由な意思決定を促進することを目的とし、活動を行った。

【実施内容】
1. 女子大学生との月に 1 時間のメンタリング
2. 月に 1 時間の高校生交流会(高校 3 年生の参加は任意)
3. 2 か月に 2〜3 時間のキャリア講座(高校 3 年生の参加は任意)

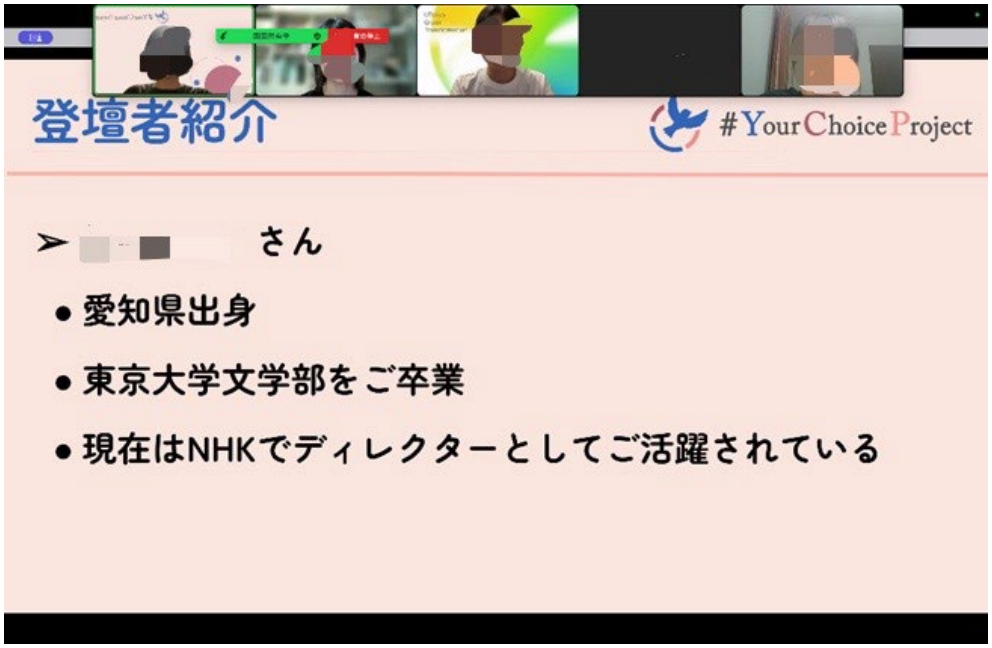
を主に行った。
加えて 8 月には、地方の女子高校生たちを東京に招待し、サイバーエージェント本社の見学の他、官僚・エンジニアなどの女性社会人と交流を行う“Summer 1Day Program”を開催した。

２．実施した奨学活動の詳細

メンタリング受講生の獲得のため、春募集・秋募集合わせて地方の高校 123 校に架電を行い、以下のチラシの配布可否を尋ねた。この結果、2 期生(2026 年卒業)51 名を獲得し、1 期生(2025 年卒業)21 名と合わせて 72 名の地方女子高校生に対して学習支援を行った。

2024 年度、メンタリング受講生(2 期生)募集のために発送したチラシ

女子大学生とのメンタリングは、高校生の都合に合わせて一人当たりおおよそ月に 1 時間の頻度で行われた。また、キャリア講座は文系理系合わせて 11 回開催され、各業界で活躍する社会人をお招きした。



2024 年 6 月に行われた、第 2 回文系向けキャリア講座の zoom 画面のスクリーンショット

8 月には、地方の女子高校生たちを東京に招待し、サイバーエージェント本社の見学のほか、官僚・エンジニアなどの女性社会人と交流を行う “Summer 1 Day Program”を開催し、計 10 名の地方女子高校生が参加した。

Summer 1Day Program の様子

当日の動画は以下のリンクから
https://drive.google.com/file/d/1bhjdzQHCPOyCpQmENekLhdaRxjD_YKNK/view?usp=drive_link

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

メンタリングを受けた高校生に対して、学力や難関大学受験に対する抵抗感を測定するアンケートを実施し、メンタリングの効果測定を行った。
2024 年度 5 月から 11 月までの変化で、学力の上昇があった高校生は全体の 36.0%、難関大学受験に対する抵抗感が軽減された高校生は全体の 60.0%だった。特に、京都大学を含む複数の難関国公立大

学で抵抗感が軽減された高校生が多かった。
2025 年度は 2 期生に対する効果測定を実施する予定で、その際、学力や抵抗感の上昇・下降だけでなく、レベル感の変化を可視化する予定である。

4 月からは再び 3 期生(2027 年卒業)を募集しており、75～100 名の参加を想定している。また、メンタリング卒業生がメンターとなり、自身が卒業した高校の後輩をメンタリングするサイクルが生じることを目標に、メンタリング卒業生のメンターへの勧誘を行っている。

2025 年度、3 期生募集のために発送したチラシ

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）
第 1 回キャリア講座後のアンケートより抜粋。

「自分が今何をしたいのかが前よりは自分で認識できるようになりました。また、大学でやりたいことが目に見えたので、勉強頑張りたいってなりました！！」

「学校だとなかなか将来のことを友だちに話す機会がないので、高い志を持つ人がたくさんいて、自分の夢に向かって既に行動している人もいて良い刺激になりました。」

「全国各地の同い年の女の子がいろんな夢を持っていて私もすごくやる気をもらえました。」